

2026 年 7 月 24 日

株式会社大銀経済経営研究所

中九州横断道路全線開通におけるストック効果

株式会社大銀経済経営研究所（代表取締役 池田 雄）は、「中九州横断道路全線開通におけるストック効果」の調査を行いましたので、概要をお知らせします。

記

<要約>

1. 中九州横断道路は、大分市から熊本市に至る約 120km の地域高規格道路として、現在整備が進められている。
2. 中九州横断道路が一部開通したのちは、旧国道 57 号と中九州道を合わせた交通量が増加しており、地域間の流動が活発になっている。
3. 大分県と熊本県のトラック運送業者に対し、肥後銀行の関連会社である公益財団法人地方経済総合研究所と共同でアンケート調査実施したところ、現状の一部開通の状態で、全体で約 6 割の事業者が中九州横断道路を利用しており、主な効果として「時間短縮」「運転手の負担軽減」が挙げられた。
4. 上記アンケートにおいて、全線開通の際の影響は全体の約 6 割がポジティブな影響を回答した。また中九州横断道路を利用していない事業者であっても、3 割以上がポジティブな影響を受けると回答しており、全線開通の効果は利用者だけにとどまらないことが分かった。加えて、全線開通により大分港の利用が増えると回答した事業者も一定数あり、大分港を活用したビジネスが活発になる可能性がある。
5. 他にも大分・熊本間の所要時間短縮や大分港周辺の物流ハブとしてのプレゼンス向上、高速道路通行止め時のリダンダンシー向上など、中九州横断道路の全線開通により、様々な効果が見込まれる。

以上

【お問合せ先】

株式会社大銀経済経営研究所 担当：工藤 TEL：097-533-8111

中九州横断道路全線開通における ストック効果

はじめに

大分県と熊本県の間には九州山地が横たわっており、長らく交通、交流を阻害してきた。現在は両県の間に国道57号が開通しているが、主要都市間の移動に要する時間が長く、山間地を通るため高低差が激しくカーブも多くなっている。また、雨、雪により通行止めとなる区間もあり、交通の安定性に欠けている。

そのような中、大分・熊本間の交通を円滑にするため、国土交通省より1994年に中九州横断道路が計画路線の指定を受け、現在整備が進められている。犬飼・竹田間など一部で開通しているものの、未開通区間も多く一刻も早い全線開通が求められており、全線開通が成った暁には、企業や個人の交流の活性化が期待されている。

本調査では、中九州横断道路の全線開通が県内へもたらすストック効果を定性的に分析し、今後の影響についてまとめる。

1. 中九州横断道路の概要

(1) 中九州横断道路とは

中九州横断道路（以下、中九州道）は、大分市から熊本市に至る約120kmの地域高規格道路として1994年に計画路線の指定を受け、現在整備が進められている道路のことである。大分県内では大分市から竹田市、熊本県内では阿蘇郡から熊本市までの整備が進められている（図表1）。

図表1 中九州道の全体像



資料) 中九州横断道路広域シンポジウム HP

大分側は2007年に犬飼 IC～千歳 IC、2008年に千歳 IC～大野 IC、2015年に大野 IC～朝地 IC、2019年に朝地 IC～竹田 IC が開通、竹田 IC 以西が2019年度に事業化され、現在整備が進んでいる。犬飼 IC 以東は現在、調査中区間となっているが、吉野地区経由で大分宮河内 IC までつながる見通しである。

熊本側は阿蘇西 IC～大津 IC が2020年に開通、大津 IC～下硯川 IC は事業中となっている。滝室坂道路も同じく事業中であるが、2026年度中に供

図表2 熊本地震で被災した国道57号



資料) 国土交通省 九州地方整備局 熊本復興事務所 HP